

西宮 えびす

平成21年
新春号

えびす
福お面



十日えびす

諸国探訪
三田分社



えびす

NISHINOMIYA EBISU
平成21年新春号

発行/西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17 電話0798-330321 FAX0798-330325
西宮えびす 平成21年新春号(通巻第30号) 平成20年12月1日 発行

編集/文化課広報 印刷/小西印刷所

献備講のご案内

当社では毎年全国各地から参拝者がお越しになる正月・十日えびすに合わせて、ご商売をされている方々より多くの献上のお品をご奉納頂いております。

昨年、献上のお品を奉納される篤志家の方を中心に「西宮神社献備講社」を結成いたしました。

正月・十日えびす期間中、お名前を記した木札と奉納のお品をお供えいたしますとともに、正月(二日~三日)・十日えびす(九日~十二日)の期間ご参拝の際には昇殿にてご祈禱をご奉仕いたします。

献備講社のご入講、お問い合わせは西宮神社講務課までお願いいたします。



各ご案内へのお申し込み、お問い合わせは西宮神社社務所(TEL0798330321)各担当係までお願いいたします。

おこしや祭 びわ娘奉仕者 募集

阪神間に夏の到来を告げる「おこしや祭」。びわが旬を迎える時期に行われることから別名「びわ祭」ともいいます。毎年、さまざまな神賑い行事の充実をすすめており、今年もお子様を中心にたくさんの方の参拝者にお参り頂きました。

当社では祭典にあわせ行列に奉仕を頂く「びわ娘」を募集しております。

びわ娘の申し込み、お問い合わせは西宮神社総務課庶務係までお願いいたします。

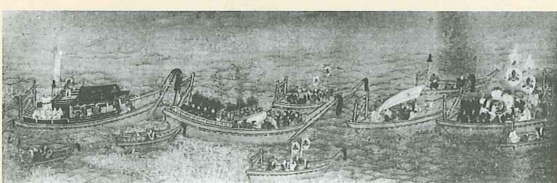
【奉仕内容】
おこしや祭参列、びわ授与等
【奉仕日時】
平成二十二年
六月十四日(日)
午後七時~
午後七時頃迄
【準備物】
当日浴衣を持参して下さい



編集室から

平成二十五年は伊勢の神宮の大御神に新殿へお遷りを仰ぐ式年遷宮の年で、持統天皇の御世に第一回が行われてより同年は第六十二回目に当たります。途中幾たびか中断した時代もありましたが、激動の現代の世にあつて今に受け継がれるという事は誠に意味深いものであるかと存じます。

当社におきましても伝統の継承は大切なことです。約四三〇年前、織田信長の社領没収により途絶えていた海上渡御が平成十二年に復興してから年度の平成二十一年は十年目に当たります。



この節目に併せ、西宮まつり協議会では記念事業の計画を予定しております。具体的な内容は今後の検討課題ですが、次号の社報でご報告できればと考えております。

西宮大神本記にみえる海上渡御

年頭にあたり、謹みて皇室の弥栄を壽ぎ奉りますとともに、氏子、各議員そして崇敬者皆様方の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

時間と場所を舞台として、人が織りなす「歴史」を振り返ると思わぬできごに遭遇し驚かされることしばしばあります。

えびすさまとマリーアントワネットの出会いもその中のひとつです。

えびすさまの微笑みは、東へ西へ

ルイ十六世の王妃と

彼女。その母マリア・テレジアは、「ダイヤヤリ漆器」というほどの東洋ファンで、そのコレクションがやがて王妃に移つていきます。この中の一点に「小督蒔絵小厨子棚」があります。

これは天板に平家物語の有名な一場面（高倉天皇の命を受けた源仲国が中秋の夜に、宮中一の美人で琴の名手小督殿の隠れ住む嵯峨野を訪ねると、「想夫恋」という曲を弾くかすかな琴の音が聞こえてくる…）が描かれた高さが十センチ余りの小型のもので、この厨子棚の扉を開くと、その内側にえびすさまとだいきくさまが描かれて

いるのです。

このコレクションを受け継いだ王妃は、これら多数の蒔絵の品々に合せてベルサイユに黄金の部屋を設え大切にしていたとのこと。小さな扉を開けて、幾度となくえびすさまを御覧になったのでは…と想像が掻き立てられます。

ベルサイユ宮殿で光り輝くえびすさまは、「蒔絵」を通じてみる東西の歴史の出会いの象徴といえるかもしれません。

平成二十一年…この新しき年にも思わぬできごとが待ち受けているでしょう。それが良いことであるならば勿論、難儀なことであつたとしてもえびすさまのみどころであります「正直のこころ」をもつて、誠実に一歩一歩進まれば、天翔けり国翔けり四海に遍く広がるえびすさまのあたたかなご神徳によつて、必ずやすばらしい日々となることでしょう。

良きお年でありますようこころよりお祈り申し上げます。

紹介の厨子棚は「Japan蒔絵展平成二十年十月―十一月 京都国立博物館」に出席。ギメ東洋美術館蔵。同展図録解説を参考。

西宮神社三田分社

〔鎮座地〕兵庫県三田市三田町

小西 康夫氏

この度、えびす大神様のご縁を賜りまして、三田分社の紹介をさせて頂く機会に恵まれました。六甲山系の北方に位置し、美しい自然に恵まれ、長い歴史と文化に育まれた三田市の三田町、旧名・戒町という呼称の示す通り明治9年に西宮総本宮様より分霊を賜りまして以来地元三田の「えびすさん」と市民に親しまれてきた分社です。

運営は旧戒町の隣保17軒で行っており、現在恒例の大祭は1月9日の宵戎・10日の本戎、11日の残り福のみの地道な活動となっておりますが、えびす大神様のご神徳を込めより多くの人々が参拝され明るく和やかに暮らす拠所としての神社になるにはどの様にお祭りすれば良いかと隣保氏子一同日々模索しております。ここ数年来当社を取り囲む環境の変化



西宮神社三田分社



盃蘭盆の万灯笼

長年神社の片隅で眠っておりました数々の資料を今一度紐解き、整理しました所、多くの興味深い文書も出てまいりましたので、少しずつ公開しております。また、ブログで当社独自のユニークな活動内容等を公表し、広くより多くの方々とのネットワークを願っております。えびす大神様に携わり日々活動されておられる諸氏との信頼関係や情報の交換によりコミュニケーションが醸成されん事を祈っております。後になつてしまいましたが、西宮総本宮様のお導きにより兵庫県諸国分霊懇親会にも参加させて頂き見聞を広める

を試行致しました所中々の評判を得、年越しから新年にかけての開催も協議中です。

IT時代に即しWEBでのホームページを立上げ、三田分社の紹介を行っています。

事が出来ました。改めて御礼申し上げます。今後とも更なるご指導をお願い申し上げます。



正月・十日えびす

一月九日(金)・十日(土)・十一日(日)

福を求め全国各地から参拝者が訪れる正月・十日えびす。平成二十年はあいにくの雨模様でしたが、例年並みの参拝者が訪れ境内を賑わせました。平成二十一年は十日えびすが金土日曜に当たり例年以上の賑わいを予想しております。



左から三番福の奥野始さん、一番福の榮悠樹さん、二番福の吉田光一郎さん

「平成二十年福男」

恒例の開門神事では例年以上の参加者が赤門前に集。二月の早朝の寒気を吹き飛ばす三人の男性が新調なった福男法被に袖を通しました。

有馬温泉献湯式

一月九日午後二時
日本最古の名湯と名高い有馬温泉の芸妓さんが独特の太鼓のお囃子に合わせて湯揉みを行い、ご神前に金泉を奉献。有馬温泉の繁栄と旅館組合の商売繁盛を祈願します。



有馬温泉献湯式



福笹を授かる参拝者



軒を運ねる吉兆店



阿波木偶箱廻しを復活する会による商店街でのえびす舞上演



新春よりお目見え 鯛みくじ

来たる正月・十日えびすより従来のおみくじに加え鯛みくじを授与いたします。小さな鯛の焼き物がおみくじを携えた姿でかわいらしいおみくじです。◎初穂料 三百円



新登場の鯛みくじ



十日えびすヘッドプレート授与式

平成二十年は徳島県より「阿波木偶箱廻しを復活する会」が、また兵庫県内より「淡路人形芸舞組」が来社。えびす舞の保存継承に力を尽くされる二団体のご協力により、例年以上に賑わしいおまつりになりました。祭典当日の朝、西宮中央商店街にてえびす舞を上演頂いたのち、百太夫神社祭に参列。午後からは神戸市元町の大丸・大阪府枚方市の近鉄百貨店にて、二月七日は阪神梅田駅十日えびすヘッドプレート授与式において駅構内でえびす舞を上演頂きました。

に斎行いたします。



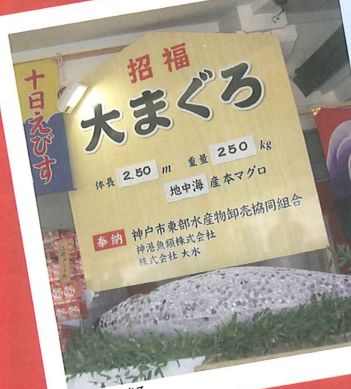
淡路人形芸舞組による近鉄百貨店でのえびす舞上演



浄暗のなか十日えびす大祭を斎行

招福大まぐろ奉納式

一月八日午前九時頃
神戸市東部中央卸売市場から約三百キロの特大の本マグロが奉納されます。奉納されたマグロは十日えびす三日間に渡ってご神前にお供えされ、参拝者により硬貨が貼り付けられます。



招福大まぐろ

奉射事始祭

えびす瓦版

文化二年(一八〇五)
今号は西宮神社社用日誌、
文書の他四井屋久兵衛寛書、
伊能忠敬測量日誌から
構成しました。



神主	吉井上総介	祝部	大森教馬	祝部	廣瀬右京	神子	紅野治良大夫
前神主	吉井陸奥守		大森修理		堀江左門		瓶子清太夫
社家	東向齋宮		大森主水		橋本右膳		大石喜十郎
			田村織衛				社役人 辻兵治(四月出奔)

備前・紀伊・但馬の御神像札 配札に動きあり

備前国へは安永九年(七八〇)より大坂安治川口六軒屋新田に住む相沢志摩が当社札を配札していたが、近年運上金が不納となつて、社役人辻兵治が糾したところ、三月四日に京都に住む志摩後家里くが参り、養子志摩は不埒により不縁となつた由。大坂道修町で世話になつてゐる倅源治郎を跡役相続にと願うので、倅を志摩と改名の上これを聞き届ける。

閏八月に紀州若山(和歌山)田中心町に住む宮下平馬が、同町の町年寄弥三郎の請人としての願書を携え西宮大神宮神職になりたいために当社へ参る。これは西宮濱東の町の守部屋利助の親類であるとの添状も持参してきた。

これにより左の通りに免許する。

宮下平馬

西宮太神宮御神像之札賦与之神職



伊能忠敬銅像(深川・富岡八幡宮境内)

伊能勘解由(忠敬)西宮で測量

二月二十五日に深川の自宅を出発した伊能忠敬は、氏神深川八幡宮に参詣し一路東海道を上り、桑名城下より海岸線を南下。伊勢太神宮参詣後更に申本を経て和歌山城下・大坂に入る。

そして今度は北上し京都・長浜から琵琶湖を廻り再び大津へ戻る。

十月二日

から四日まで尼ヶ崎城下で泊まる。その間尼ヶ崎候から小菊紙三十帖が贈られる。翌五日朝六ツ半頃に尼ヶ崎城下を出発。二班に分かれ高橋善助らは街道沿いに西ノ宮町迄測り、伊能らは海岸沿いに西宮迄を測る。七ツ頃両手に共に西宮に着き、脇本陣の坪屋に止宿する。

尼ヶ崎では曇天続きであったが、この夜は久しぶりの晴天となつたので、測量の道具を準備し天文測量を行った。

「何等之御用ニ可成事なるや、下々にて其故知りかたし」

六日六ツ前に西宮を出立し、大石村で止宿す。

尚、文化六年十一月九日にも西宮

令免許也也
公儀御定法并御社法之通可無相違者
仍而免許如件
文化二年丑閏八月

本社神主上総介神奴連良貫 印

また社家東向、祝部修理連名で

◎御神像札を紀伊国中賦与すること

◎御修理料は年々三月廿一日に持参のこと

◎一年切証文なので年々持参のこと

◎証文不埒の者がいれば申出ること

これらを堅く守るよう添免許を渡した。

十月廿九日、但馬国養父郡奥米地村に住む本谷又治郎が配下になりたい旨にて参る。

先年も参上したがその節には村役人の添状がなかつたので今回に及ぶ。これにより伊豆仕

(出石)郡喜之崎(城崎)郡ふた方(二方)郡など六ヶ郡への配札を申付け、御運上として青銅二貫文つつ納めることとする。

街道沿いに昆陽宿方面から西宮町への測量を行っている。

西宮宿町 木村周蔵支配大坂町奉行迄測、

昆陽より二里実測二里五丁

三十六間、西宮酒造四十四軒名

酒白菊小西善五郎

西宮太神宮

(伊能日誌 四井家)

住吉社の創建

西宮の住人當舎屋金兵衛は、夙川から流れ出る土砂や船を翻弄する西風から西宮浦を守るために、沖へ六百間ほどの築洲を計画し、その絵図を氏神戎社絵馬堂に奉納、更に享和元年(一八〇二)に勸進帳により広く助成を求めた。そしてこの年、工事成就の神明加護を得んがために住吉社を創建する。



「摂州西宮築洲略図」吉田伊佐直

廣田社御供所普請

廣田社の御供所は近年修覆を加えるも大破に及び、浜方世話人葛馬治兵衛、千足五兵衛、樽屋太右衛門、淡路屋与吉郎、上念長兵衛

神主、六甲山へ登る

六月十四日 神主と前神主それに石屋手伝人など総勢十人で六甲山上の宝殿へ参る。これは先年西宮と芦屋の山論の節に、芦屋人が宝殿の扉を谷へ落としたという趣を伝え聞いたので、扉を新たにするために登山した。

千鯛屋中より紫幕奉納

安永四年(七七五)に千鯛屋中より縮緬の幕が献上された。これは「格別之寄附物」であり、この吉例に従い本年八月に、同中行司加茂屋仁兵衛、座古屋六兵衛などが中心となり、京都で染めさせた紫幕が奉納される。大坂香具屋中の提灯を少し外へ吊り替え御殿へ幕を掛ける。御膳料として一貫五百文を寄進。

新酒番船出帆は西宮に限る

江戸へ樽廻船により新酒を競って運ぶ新酒番船。これまでは西宮と大坂安治川から出帆していたが、本年より西宮浦一ヶ所からとなる。

により普請が行われ七月に出来上がった。

張り壁がさび壁となりまた御供場も庭も広く、玄関の押入れを取り払い四畳半の台所が新しく出来た。

これまでは座敷を借りた人が御供所にも入り込んだがそのようなこともなくなり、社中にとつても好みとなった。前々よりいかなる訳か、当所浜方が普請することとなっている。

河豚が大漁

当浦で七、八寸ぐらいの河豚が、一日一人で多い者では四五百匹も釣り上げている。皮に光りがあり銀ふぐとの由。(先年来のふぐは鱈ふぐ)味噌或いはすまし汁など好みにより食用としている。(四井家)

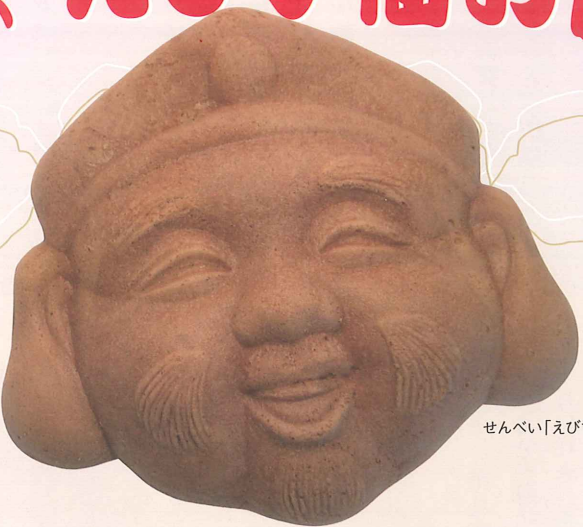
甲子講をとりきめる

二月十日は本年初の甲子日につき、大己貴御社へ御膳を献上。その後甲子講世話人が関屋へ寄り合い、掛銭を月八文とし遠近に聞わらず五六百人の講を拵えるよう決め、講元銘々が帳面を二冊つつ持ち帰る。

甲子の日には講中の名前を読み上げ御祈禱を執り行う。その後池の側の茶屋座敷で講中へ一飯を差出し、懐中守板札を渡す。

大己貴尊 守護所 少奈彦尊

福をいただく「えびす福お面登場」



せんべい「えびす福お面」

えべっさんのお顔をかたどったポリウムたつぷりのおせんべいです。今回は西宮中央商店街で新しい名物が登場しました。その名も「西宮えびす福お面」。

えべっさんのお顔をかたどったポリウムたつぷりのおせんべいです。今回は西宮中央商店街でえびす福お面の製造に携わる「マンダリ」の山本雅一さんと山本照子さんにお話を伺いました。

「えびす福お面を作るきっかけはなんですか？」

山本照子さん かねてから商店街を活性化させるよいアイデアはないかと、商店街のみんなで相談していきなところ、「やはりえべっさんの門前町なんだからえべっさんをモチーフにした名物をつくろう」ということになりました。それなら風呂敷や座布団・まんじゅうをつくろうといった案も出ましたがなかなか決まらず苦慮していました。そんな折、伏見稲荷のお土産にきつねのせんべいも面白い、これだと。

「おせんべいを作ると決まってからの話を聞かせて下さい。」

山本照子さん まずせんべいの金型を手配しなければと、いろいろメーカーを尋ねましたがなかなか思った通りのものがありませんでした。そんな中、伏見稲荷できつねせんべいの金型を作っている方に



えびす福お面を手を微笑む山本さん

お願いしたところ、ご高齢の身でありながら快く引き受けてくださったんです。

「焼き上げる際に難しい事、気をつけている事はありますか？」

山本雅一さん 本業が八百屋です。せんべいは初めてのことばかりでした。とにかく味をよくしたいという思いだったので、生地的配合・火加減・焼時間等を少しずつ変えて何度も研究し、商店街の人にも味見をしてもらって今の味が出来ました。

「味の特徴を一言でお願いします。」

山本雅一さん きなこと黒糖の、昔懐かしい味わいを楽しんで頂きたいですね。

取材のあと、筆者もえびす福お面を味見させて頂きました。黒糖の素朴な甘みが口の中に広がり、飽きのこない味です。正月・十日えびすのご参拝の際は「えびす福お面」に舌鼓をうつのも結構ではないでしょうか。

山本さんは氏子青年会若戎会の会員でもあります。
(たんじりを曳ぐ山本さん中央)



万田里

◎万田里(マンダリ)
西宮市馬場町66
TEL 0798-262400
えびす福お面380円・箱入りは5000円

3月20日 10時	17日 11時	14日 10時	11日 11時	6日 11時	2月3日 10時	25日 9時	15日 10時	12日 11時	11日	10日 4時	9日 16時	9日 14時	8日 9時30分	7日 10時	5日 11時	3日 9時30分	2日 10時	1日 7時	1月1日 6時	31日 20時	31日 18時	31日 16時	31日 15時	27日 10時	23日 10時	12月21日 10時	
春分の日遙拝式	祈年祭	初住吉祭	紀元祭	神明神社祭	節分祭	若戎会餅つき	十日えびす報賽祭	成人祭	残り福	十日えびす大祭	十日えびす宮宮祭	有馬温泉献湯式	招福大鮪奉納式	昭利天皇遙拝式	百太夫神社祭	元始祭	奉射事始祭	歳旦祭(住吉神社)	歳旦祭(西宮神社)	除夜祭(住吉神社)	除夜祭(西宮神社)	大祓式(西宮神社)	大祓式(住吉神社)	煤払祭	天長祭	冬至祭	

※毎月1日・10日・20日 西宮神社句祭
 ※毎月1日・15日 住吉神社月次祭
 ※毎月第三土曜日 骨董市

※青字は境外末社住吉神社(西宮市西波止町4・4)の行事です
 ※行事の日時は社務・天候等により変更の場合があります。
 事前に西宮神社社務(0798・333・0321)・住吉神社社務所(0798・32・0230)にお問い合わせ下さい。



授与所にて福もちを無料授与いただきました

2月3日 節分祭

大寒から立春へ、節気の分かれ目に除災招福を願うおまつりです。午前十時に本殿にて祭典を斎行。午後五時三十分からは拜殿前においてお焚き上げを行いますとともに、氏子青年会若戎会がつき上げた福もちを授与所にて無料授与いたします。

また当日は特別に節分札(初穂料五百円)を授与します。
 皆様お誘いあわせのうえ、ご参拝下さい。

EBISU TOPIC

えびすトピック

「神仏霊場会」発足

去る平成二十年三月二日、比叡山延暦寺において、「神仏霊場会」設立総会が開催されました。同会は神仏和合の精神のもと、相互巡拝の推進・神威仏光の高揚を図るとともに、社会貢献へ力を合わせます。



神仏霊場
参拝朱印帳

社務日誌翻刻作業 中間報告

二十六号でご報告いたしましたとおり、関西学院大学との学術連携協定により社務日誌翻刻作業を継続いたしております。

去る八月二十六日、翻刻作業に並行して、西宮神社の年頭御札*についての発表が同大学の大学院生により行われました。

※年頭御札

江戸時代、西宮神社の神主である吉井家が年始にあたり江戸城に参上し、徳川将軍にお目見えをする行事。



関西学院大学の大学院生により行われた西宮神社の年頭御札についての発表

参加社寺は三重県の伊勢神宮を始め、近畿二府四県から約二五〇にほり、当西宮神社も参加いたしております。

同年九月八日には「神仏霊場巡拝の道」の発表、またオリジナル朱印帳の作成・公式ガイドブックの出版等、今後の同会の活動に注目が集まります。

なお神仏霊場会参加社寺のガイドブックとオリジナル朱印帳は当社社務所でも授与しております。

※数に限りがあります。

- ◎公式ガイドブック 一四〇〇円
- ◎神仏霊場会朱印帳 一五〇〇円
- ◎ご朱印 三〇〇円

納札所を新調

従来の納札所が老朽化し使用に耐えない状態となりましたので、本年十月に従来の納札所より大きい、白木薫る麗しい納札所になりました。

設置場所は同じく本殿の西側です(大きな看板が目印です)。

新年を迎えるに当たり一年間お守り下さったお札お守りに感謝を込めてお納め頂き、新しいお札・お守りをお受け下さい。

西宮濱戎神社を 美しく整備

去る九月十日、末社住吉神社境内に鎮座する西宮濱戎神社の整備事業の奉告祭を斎行いたしました。

西宮濱戎神社は当社と同じくえびす大神様をお祀りしており、かつては市内の朝風町に鎮座していましたが、昭和三十九年に末社住吉神社の境内に遷座。以後お世話人の寄進によりお祭りが執り行われて三十余年を経ておりました。

そして平成十八年、お世話人方々のご提案により整備事業を計画。社殿の塗り替え、石畳の整備、記念碑の建立を行いました。



美しく整備された西宮濱戎神社

※十日えびす期間中はご利用いただけません。特設の納札所へお納め下さい。

◎福火点灯日時

12月31日	午後6時30分〜翌午後5時
1月2日	午前8時〜午後5時
1月3日	午前8時〜午後5時
1月15日	午前7時30分〜午後5時
2月3日	午後5時30分〜午後8時



新調なった納札所

えべっさんに感謝の気持ちを 込め、誓文祭を賑々しく斎行

新年を迎えるに当たりえびす様に商売繁盛を祈願するお祭り「十日えびす」に対し、一年間お守り頂いたえびす様に感謝するお祭りが「誓文祭」です。

えびす

Q & A

Q えびす様は耳が悪いので本殿の裏から大きな声でお参りするのがよいと聞いた事があります。本殿の裏側からお参りをさせて頂く事はできますか？

A えびす様は「古事記」「日本書紀」に見える「蛭子」という方が正体であると考える方があり、当社はえびす様のご神名を「蛭子大神様」と申し上げております。

Q この伝承から「えびす様は耳が不自由である」ので「大きな声で」お参りするという信仰が生まれたようです。ただえびす様の信仰も地域によつてさまざまですので、西宮神社におきましては通常通り拝殿正面からお参り下さい。

Q えびす様と大黒様の御神影を受けました。どのようにお祀りすればよいでしょうか？

A 御神影(おみえ)とは、ご祭神のお姿を写した紙のお札です。

一般的に御神影専用の御神影神棚(二神用と三神用があります)に、向つて右にえびす様、左に大黒様をお祀りして下さい。もしお住まいの地域に独自の祀りの仕方がありましたら、それにならつてお祀りして頂いて結構です。



当社におきましては毎年十二月二十日に本殿にて祭典のみ斎行いたしておりますが、平成十八年に復興した古式神饌を供進。翌平成十九年にはえびす講さながらの直会の席を設け、参列者にご参加いただきました。

本年は落語家のお断を披露するとともに、神前くじを行い、参列者にお楽しみいただきました。来年度以降も賑々しく斎行いたしたく計画しておりますので、皆様のご参列をお待ちいたしております。

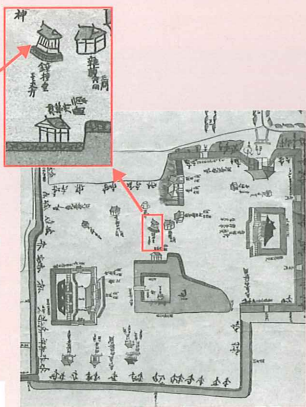
※誓文祭のご案内は正月十日えびすにご折符を受けられた方にお送りいたしております。



落語家のお断を披露

Q 参道沿いでお寺にあるような大きな鐘を見ましたが、実際に使われていたのでしょうか？

A 明治時代以前は日本の神々が仏教の守護神であり、神と仏とが一体であるとする神仏習合説が隆盛でありました。当社もその例にもれず、往古は社僧(神社に奉仕する僧侶)や、神宮寺(神社に付属する寺)があった事が史料に見えています。



Q 指摘の鐘は、豊臣秀頼が慶長十五年寄進したものと考えられており別名「御戎の鐘」ともいいます。真享三年(西暦一六八六年)に作られた絵図には「鐘撞堂」なる建物が見えており、このころには時間を告げる鐘として使われていたと考えられます。



当コーナーでは、引き続き皆様のご質問をお待ちしております。えびす様にまつわるご質問から神社一般のご質問まで、どんなご用件でも結構です。
◎ご質問は郵便もしくはFAXにて、TEL 079-80974 兵庫県西宮市社家町一十七西宮神社 総務課 広報係 (FAX) 079-809-3355(3355)まで お願い致します。